

かお・人・interview

2023年11月13日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
武雄河川事務所 所長

寺尾 直樹氏

TERAO Naoki

武雄河川事務所は、六角川、松浦川、嘉瀬川など治水施設の整備や維持管理を担っている。これらの河川は過去に何度も氾濫を起こし、そのために地域住民は大きな被害を受けた。そのため総合的な水管理を通じて流域全体の水災害対策「流域治水」を進めている。河川の保護と水辺空間の活用は、地域の安全と発展に欠かせない要素だ。今後の具体的な取り組み、課題などについて寺尾所長に話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

近年、気候変動の影響に伴い、全国的に洪水の被害が激甚化、頻発化しています。この佐賀県でも、当事務所が管理する六角川水系において、令和元年、3年に洪水による甚大な被害が発生しました。また、R5年度の出水では松浦川水系で氾濫が発生する他、嘉瀬川水系でも観測史上最高水位を記録するなど、洪水のリスクが大きい地域です。この地域には3つの主要な河川(六角川、嘉瀬川、松浦川)があります。その中でも特に厳しい状況にあるのが六角川です。この川は非常に難解で、海から上流までの標高差はわずか4メートルしかないため、水はけも容易ではありません。特に雨が降った場合、水位は急激に上昇し洪水のリスクが高まります。

この地域の土地は軟弱で、がた土が広がっています。この地勢は変えることができませんが、洪水の被害を最小限に抑え、住民が安全に生活できるようにするためには、河川の改修や堤防の強化、適切な避難計画の策定など、総合的な対策が必要です。佐賀県をますます元気にするためにも、県や市町、そして地域にお住まいの方、建設業の方等と一緒に水災害対策に取り組んでまいります。また、水害対策のみならず、川と人との交流も進めていきたいと考えています。



▲嘉瀬川のバルーンフェスタ

昨年3年ぶりに観客を会場に迎えて実施された佐賀インターナショナルバルーンフェスタでは嘉瀬川の河川敷を活用しており、約85万人の方に訪れていただいたところです。松浦川においても小学校や地域と連携して、水辺空間を活用した環境学習を小学生向けに実施しています。川の魅力を皆さんとも共有し、地域の活性化につなげていけたらと思います。

安心と安全が確保されることは、地域の経済活動が発展する基盤です。それには防災力の向上が必要で、これによって地域は持続可能な発展を遂げ、活力ある社会を築けます。

Q福岡県や佐賀県とのつながり

九州での勤務は初めての経験ですが、大学時代の6年間は福岡県で過ごしました。当時はバイクでのツーリングが趣味であり、隣県の佐賀県も小旅行で訪れ、呼子のイカや素晴らしい景色を堪能させていただきました。災害から地域の安全・安心を確保するため、緊張感をもって河川対策などの事業に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

Q当事務所の紹介

武雄河川事務所では、地域の人々が安全で快適に生活できるよう、六角川・松浦川・嘉瀬川の堤防や排水機場、堰、水門、樋門など治水施設の整備や維持管理、厳木ダムの管理を行っています。また、地域の暮らし、歴史・文化との調和に配慮し、豊かな生態系および河川景観を保全するため、地域と一緒に「川づくり・まちづくり」に取り組んでいます。

近年、甚大な浸水被害が発生している六角川では、令和元年の洪水被害を受け、関係機関が連携して「六角川水系緊急治水対策プロジェクト」をとりまとめ、築堤、河道掘削、遊水地整備、排水ポンプ増強等の治水対策に取り組んできました。

また、令和3年の洪水被害を受け、令和4年3月に「新・六角川水系流域治水プロジェクト」をとりまとめ、より一層スピード感を持って河川整備の加速化を図るとともに、本川・支川、上流・下流などの流域全体を俯瞰し、国、県、市町、住民など、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を推進しています。

令和5年3月28日には、特定都市河川浸水被害対策法に基づき、六角川の柵島橋より上流域を特定都市河川流域に九州で初めて指定し、法的枠組の下で雨水流出増加の抑制や流域の雨水貯留・浸透機能の向上、水

害リスクを踏まえた土地利用など、浸水被害軽減に向けた対策の強化を図り、「水害に強く、住み続けられるまちづくり」を推進します。

組織構成は、事務所、出張所および厳木ダム管理支所を合わせて95人(事務官31人、技官50人、非常勤職員14人)で業務を行っています。

地域の安全・安心を確保し、佐賀県を元気にするためには、事務所全体で力を合わせて取り組む必要があります。所内では立場に関係なく、事務所長から一般職員まで気軽に業務上の悩み事や仕事の達成感を共有できるような雰囲気作りや風通しの良い職場づくりを心がけています。



▲「六角川水系特定都市河川および流域の指定」確認書調印式



▲第五回六角川流域治水協議会

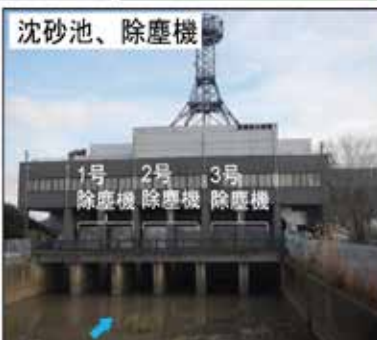
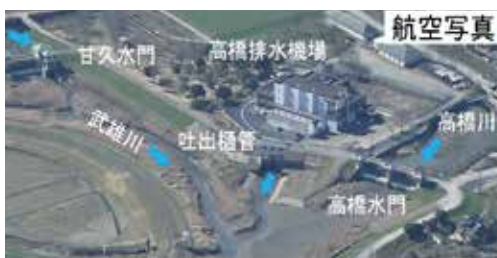
また、若手職員のスキルアップにも取り組んでおり、いくつかのテーマを設定した上で、ベテラン職員が若手職員に対して、これまで経験してきた取り組みや悩み、行政スキルなどを講義形式で共有し、技術の伝承を図っています。また、現場に赴き、実際に目で見て、実感してスキルを身につけることを推奨しており、若手職員の職務への不安解消や、若手同士はもちろんです。年齢の垣根を越えて、所内のコミュニケーションの円滑化を図っています。最終的には、六角川、嘉瀬川、松浦川の特徴を語れる職員を目指してほしいと思います。

Q今年度の事業概要について

令和5年度の事業予算(維持修繕費および工事諸費除く)は7,148百万円となっており、その内訳は、直轄河川改修事業費962百万円、工作物関連応急対策事業費325百万円、総合水系環境整備事業費2百万円、堰堤維持費494百万円、河川激甚災害対策特別緊急事業費5,250百万円、河川等災害関連事業費115百万円です。

事業内容の概要ですが、堤防が低い箇所や堤防の断面が不足している箇所は必要な断面を確保するために、かさ上げや拡幅等を実施しています。また、洪水時に、川の水位を下げることを目的として、洪水調節施設や遊水地の整備にも取り組んでいます。

- ・嘉瀬川水系／築堤(嘉瀬川:尼寺地区)、堤防補強(嘉瀬川:嘉瀬地区)等を実施しています。
- ・六角川水系／河川激甚災害対策特別事業として高橋排水機場(六角川:高橋地区)および牛津川遊水地(牛津川:小城地区)の整備を推進するとともに、六角川洪水調節施設(六角川:溝ノ上地区)の整備(河道付替)や牛津川引堤(牛津川:上砥川地区)等を実施しています。
- ・松浦川水系／築堤や樋管の改築(徳須恵川:石志地区)等を実施するとともに、厳木ダムの管理設備の点検整備等を実施しています。
- ・その他、各水系／河道、堤防、樋管、水門、排水機



▲高橋排水機場：洪水被害軽減対策

場等の維持管理を実施するとともに、耐用年数が超過している機械設備の更新を行うことで機能向上を図っています。

Q地域との連携・協働について

平成25年6月に河川法が一部改正され、河川の維持、河川環境の保全などの河川の管理につながる活動を自発的に行っている民間団体等を「河川協力団体」として法律上位置付けました。これにより、河川管理者との信頼関係を構築することで、河川管理のパートナーとしての活動を促進し、地域の実情に応じた河川管理の充実を図っています。

武雄河川事務所管内でも特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸や特定非営利活動法人アザメの会、自然と暮



▲巖木川での外来種水草撤去作業

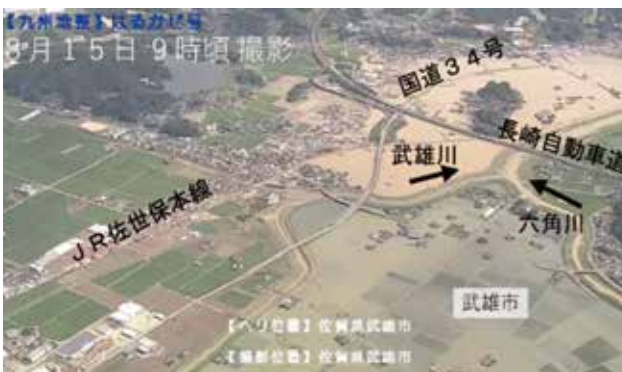


▲アザメの瀬での水生生物調査

らしを考える研究会が河川協力団体として指定され、河川における除草等の維持活動や河川空間を利用した観察会、安全に河川を利用するための講習会など、活動していただいています。

働きやすい環境づくりに向けて、適正な工期の確保、発注時期の平準化、発注者側の意識改革、週休2日工事の普及・拡大、大学生や高校生などに対する建設業の魅力発信などに努めてまいります。

Q地域建設業への要望・メッセージ



▲令和3年8月出水浸水状況

気候変動の影響で、年々、日本各地で深刻な洪水被害が発生しています。我々の管理する六角川水系でも、上述のとおり激甚な被害が発生しました。その際の災害対応、そして、被害軽減に向けた事業の推進により地域の安全・安心を確保すること、まさに国土強靱化を図るためには建設業の方々の力が不可欠です。

国土強靱化については、令和5年6月に国土強靱化基本法の一部が改正されました。中長期的な見通しに基づき、国土強靱化に関する施策を引き続き計画的かつ着実に推進するため、「国土強靱化実施中期計画」の策定が法制化されました。今回の法改正により、ますます国土強靱化の必要性が明確になったところです。地域の安全と佐賀県の活気を保つために、ぜひともご協力をお願い申し上げます。

一方で、人口減少社会を迎える中で、建設業における担い手の確保は重要な課題であり、働き方改革に資する取り組みが必要不可欠であると認識しています。

Q趣味や健康法について

趣味はスポーツ観戦の私にとって、佐賀県は魅力的な場所です。サッカーやバスケットボールなど、プロのチームが盛んに活動しており、サガン鳥栖がサッカークラブとして地域を盛り上げています。先日、駅前不動産スタジアムで試合観戦しに行ってきました。鳥栖駅を降りると目の前はスタジアムがあり立地条件も他の地域では味わえない魅力に触れることができました。また、サポーターの皆さんと一緒に楽しく応援させていただきました。

バスケットボールについては、SAGAアリーナが完成した年に佐賀バルナーズがB1に昇格しました。ぜひ、新しいアリーナで試合を観戦したいと思います。その他、バレーボールやハンドボール、そして学生時代からファンであったソフトバンクの試合にも足を運び、現地で応援しながら、佐賀県はもちろん九州全体がますます元気になることに、少しでも貢献できればと考えています。

プロフィール



出身地：愛媛県
 生年月日：昭和58年5月11日（40才）
 H21年4月 港湾局 湾技術企画課 技術監理室 採用
 H27年4月 近畿地方整備局 姫路河川国道事務所 調査課長
 H31年4月 近畿地方整備局 企画部 企画課長
 R2年4月 水管理・国土保全局 河川計画課 課長補佐
 R4年4月 水管理・国土保全局 砂防部 保全課 海岸室 課長補佐
 R5年4月 現職